

地小出版  
方小版

情報誌

# アクセス

毎月1回	1日発行
購読料	定価 150円 (本体 143円)
年間	1,500円(税込み)
振替	00120-0-19017

発行所 (株)地方・小出版流通センター  
編集 アクセス編集委員会

〒162-0836 東京都新宿区南町20  
TEL.03-3260-0355 FAX.03-3235-6182

## 判型統一の私案

A5判ファミリーとA4判変型で  
ほぼすべての分野の本をカバーできると思う

文・新井 浩二

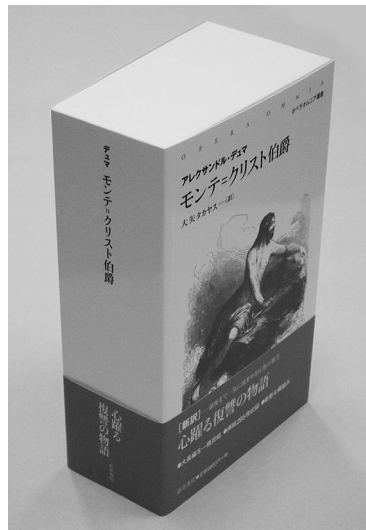
### ■本の判型

書店の料理書や写真集のコーナーに行くと、様々な判型の本が入り乱れた棚を目にする。全然美的でないし、背がでこぼこだから目的の本を探しにくい。他のジャンルの棚も似たり寄ったりの乱雑さだ。

日々出版されている本の大きさは絶望的なまでにバラバラである。A6判・新書判・B6判・四六判・A5判・B5判・A4判・B4判・A3判、等々。規格判のほかに様々な変型判があり、さらに、これらのそれぞれに上製本と並製本がある。上製本にはチリが付き、並製本より数ミリ大きい。

規格判から5mmも大きさを変えれば、人はそれを認識でき、新鮮な感じを受ける。だが、その違いは読者が望んでいるのだろうか？ そのような意味のないことはやめて、判型が無秩序にならないように、出版社が自ら縛りをつけるべきではないか。

大ききの不揃いだけでなく、過剰な装幀も困ったものだと思う。装幀が一番困りものなのがハードカバーだ。ハードカバーは重く、扱いにくく、読みにくい。ハードカバーには無意識の抵抗が働き、ソフトカバーに比べて手に取る頻度が確実に減る。そのようなものは廃止すればいいと思うが、なぜか未だに出版され続けている。ハードカバーは本文を保護するためというのは分かる。しかし、普通に読んで本棚に入れておく分には並製で何の問題もない。本は保存性も大事だが、読みや



モンテ・クリスト伯爵 (オペラオムニア叢書1) / アレクサンドル・デュマ著 / 大矢タカヤス訳 / A5判変型・並製・1486ページ / ISBN978-4-903981-01-7 / 定価 3800円+税

すさはもっと大事だ。

### ■判型の統一案

本の判型に多様性はいらぬ。統一できるものは統一したほうがよい。本の大きさがそろっていると、整理がしやすく、収納の効率が良く、目的の本を本棚から探しやすい。

では、どの判型に統一すればいいのか。様々なジャンルでシミュレーションした結果、A5判並製が最も汎用性が高いという結論になった。A5判並製は大きすぎず小さすぎず、扱いやすく、読みやすい。写真や図もある程度大きく入れることができる。A5判並

製を本棚に並べてみると、きれいにそろって気持ちいい。

基本的にA5判で統一するのがベストだが、それでは大きすぎる場合も当然ある。その場合は、A5判の小口を20mmカットした判型をお勧めしたい。縦の長さはA5判と同じだが、だいぶ印象が違うと思う(ただし、この判型は縦組みにはあまり向かない)。反対に、写真や図をメインにするため、もう少し大きい判型にしたい場合もある。その場合は、A5判の小口を数センチプラスすればかなり大きく写真や図を入れられる(紙の取り都合の問題があるため、具体的な数字は検討の余地がある)。小口をマイナスしたりプラスしたりすればA5判ではなくなるわけだが、背の高さが同じなので、統一感は保たれる。写真や図を大きく見せるため、大型にする必要がある本は別として、ほとんどのジャンルはA5判ファミリーに入れることができると思う。

大型にする必要がある本は、A4判の天を20mmカットした判型で統一する。A5判の倍のA4判で統一すれば整合性がとれるのだが、20mmカットするのは、A4判では大きすぎるからだ。A4判の天を20mmカットするとちょうどいい感じになる。A4判の天を20mmカットすればいい感じになるというのは個人的な感覚で、これで統一をというのは独断すぎる気もするが、B5判ではもの足りない、A4判では大きすぎる、ということでこの大きくなった。

以上のA5判ファミリーとA4判変型でほぼすべての分野の本をカバーできると思う。他の判型でなければならぬ理由があるならば、そうすればよい。

本の大きさは統一すべきだなどと言うのは無謀かもしれない。でも、単行本はまずA5判で検討していただいけな

いでしょうか、くらいなら編集者をお願いしてもいいだろう。

### ■ オペラオムニア叢書

先日、アレクサンドル・デュマの『モンテ＝クリスト伯爵』を出版した。新訳で、東京学芸大学名誉教授の大矢タカヤス先生に訳していただいた。

『モンテ＝クリスト伯爵』は最高におもしろい小説だ。読み始めたら、最後まで読まずにはいられない。デュマの筆力に圧倒される。特に多感な時期の中高生にはぜひとも読んでいただきたい。一生心に残ると信じている。

裏表紙の要約も大矢先生に書いていただいたが、これが見事な要約になっている。この要約を読んだ人は誰でも

『モンテ＝クリスト伯爵』を読んでもたくなと思う。弊社のホームページにも同じ文章が載っているの、ぜひご覧ください。

この本の体裁は、A5判変型、横組み、ジャケット無しのペーパーバック、1486ページ。19世紀の挿絵を295枚収録した。大長編小説を一冊で刊行するという、限界に挑戦した本だが、ペーパーバック且つノドの開きがいいので、このボリュームにしては扱いやすいのではないと思う。文学書での横組みはほとんど例がないはず。判型はA5判の小口を20mmカットした横128mm×縦210mm。因みに、この形は横と縦の比が1:1.640で、いわゆる黄金矩形(1:1.618)とほぼ同じ形になっている。

このフォーマットで西洋の古典文学を翻訳出版していきたい。「オペラオムニア叢書」と名づけたこのシリーズのコンセプトは「上質のペーパーバック」。文庫本はモノとしてチープで、所有の満足感が薄い。その対極の上製本は大きさに手を取る気にならない。ちょうどその中間の、存在感のある大きさに、しかも気軽に手にできるペーパーバックとした。欧米のペーパーバックを参考にしたが、それらは一般的に用紙と製本の質が悪い。本叢書は上質紙を使用するなど、造本の品質を良くした。

本が出来上がって初めて気づいた反省点もいくつかある。それらは今後改善していきたい。

(あらい こうじ/新井書院代表)

## 新刊ダイジェスト

※価格は総額(税込)表示です。

### 『文豪たちの釣旅』 ●大岡 玲著



ああ、いつの日かこんな釣りを自分もやってみたい。開高健の『フィッシュ・オン』を読み、そんな夢を見ていた十代半ば。それから二十数年、何度か彼の釣旅を経験出来ると、釣りにまつわる他の文人たちの世界にも触れたい。本書は広報誌「フィッシング・カフェ」に掲載されたエッセイをまとめたもの。芥川賞作家の著者が開高健を皮切りに14人の文人の旅を追体験し、奥深い

釣りの世界に案内してくれる。中には必ずしも「釣り好き」とは言えない文人も登場するが、何らかの接点を見つかる博識ぶりはさすがである。いかにして釣り人となったかを自ら語る書き下ろしで本書を締めくくる。

◆1200円・新書判・287頁・フライの雑誌社・東京・2012/6刊・ISBN978-4-939003-50-9

### 『戦争していた国のおらが里 —記憶の絵文集』 ●酒井キミ子著



すでに新聞などで紹介された話題の一冊。著者は、1928(昭和三年)、富山県中荒川音杉村の生まれ。ライフワークとして20年以上、自身の体験した昔の暮らしを、記憶を頼りに描き記録してきた。本書はその450枚以上の絵をまとめたものだ。四季折々の農作業、日常生活。一年間の行事や子どもの野遊び。そして戦争。ザイゴ(在郷)の生活をひとつひとつ丁寧に描

き地元のことばで綴る作品は、決して上手くはないが温かみとユーモアを感じる。1月からほとんど毎日ある細かい田んぼの仕事は昔のひとたちの工夫や苦勞がわかり、貧しいながらも里の感性の豊さを伝える。戦争時の息苦しさは静かな描き方だけに不安が増す。

◆3990円・270mm×240mm判・294頁・桂書房・富山・2012/6刊・ISBN978-4-905345-28-2

### 『日本の石炭産業遺産』 ●徳永博文著



かつて石炭産業は、日本のエネルギーを支える主要産業であったが、高度成長期におけるエネルギー革命により、国内の炭鉱は次々と消えていった。しかし、高度成長期を象徴する大阪万博から42年経過した現在でも、空知や筑豊などの旧産炭地には炭鉱時代の雰囲気が残っており、往時を偲ぶものを求める旅人の数は静かに増加している。

著者は北海道から沖縄まで、13年をかけて現地

調査し、90の石炭産業遺産について、カラー写真を織り交ぜた記録をまとめあげた。年表などの資料も充実しており、「石炭産業の記憶を風化させてはならない」という意気込みが伝わってくる。古きを訪ねて新しきを知る。石炭産業の息吹を追いかける旅のお供には、最適の一冊である。

◆2310円・A5判・284頁・弦書房・福岡・2012/6刊・ISBN978-4-86329-075-4

# 売行良好書

期間：2012年7月16日～8月15日

[出荷センター扱い] ※税込み価格

- (1)『戦争していた国のおらが里』3990円・桂書房 (2)『パターン認識と機械学習の学習』1050円・暗黒通信団 (3)『絵本の庭へ』3780円・東京子ども図書館 (4)『鎮魂の旅路』1260円・ホルス出版 (5)『わが家の虫図鑑』2940円・トンボ出版 (6)『ともにある 1』1890円・木星舎 (7)『本土の人間は知らないが、沖縄の人はみんな知っていること』1365円・書籍情報社 (8)『暗越奈良街道ガイドブック2012』1500円・読書館 (9)『モダンタイムス』1890円・ナナロク社 (10)『二条城を極める』840円・サンライズ出版 (11)『グリム童話集200歳』1890円・小澤昔ばなし研究所 (12)『親密性』2520円・洛北出版



[三省堂書店神保町本店4F—センター扱い図書] ※税込み価格

- (1)『昭和プロレスマガジン 27』1000円・昭和プロレス研究室 (2)『東京かわら版 8月号』420円・東京かわら版 (3)『現代社会はどこに向かうか』683円・弦書房 (4)『子どもを社会科好きにする授業』2100円・学芸みらい社 (5)『未来ちゃん』2100円・ナナクロ社 (6)『平将門 武射・山辺風土記』1575円・崙書房 (7)『みるみる子どもが変化する『プロ教師が使いこなす指導技術』』2100円・学芸みらい社 (8)『フリースタイル 19』932円・フリースタイル (9)『素数表 150000』375円・暗黒通信団 (10)『二条城を極める』840円・サンライズ出版

[ジュンク堂書店池袋店地方出版社の本—センター扱い図書] ※税込価格

- (1)『温泉番長ほっかいどう book 2』780円・海豹舎 (2)『現代社会はどこに向かうか』683円・弦書房 (3)『メダリストへの道』1995円・石風社 (4)『埼玉の川を歩く』1575円・さきたま出版会 (5)『本土の人間は知らないが、沖縄の人はみんな知っていること』1365円・書籍情報社 (6)『ともにある 1』1890円・木星舎 (7)『震災と過疎を越えて』2000円・川辺書林 (8)『高尾山・景信山・陣馬山登山詳細図』735円・吉備人出版 (9)『奥多摩東部登山詳細図 全58コース』800円・吉備人出版 (10)『暗越奈良街道ガイドブック2012』1500円・読書館

以下ホームページでも各種情報提供を行っております。ご利用ください。  
本と出版流通のページ：<http://neil.chips.jp/>


## トピックス — ★★

▼新規加入出版社の石文社さんから柳田國男の没後50周年記念出版として『先祖の話』の新訂版が刊行されました。小島宏允監修 1890円。以下帯文より引用です。「ご先祖様はスゴイ!! 柳田國男没後50周年記念出版。柳田國男の不朽の名著が読みやすくなってリニューアル。家族の健全な幸せは先祖を祭ることと説く本書は、現代社会に見失われた「生と死の尊厳」を回復する警鐘の書でもある。死者は33年後には『祖霊(先祖の霊)』となり、氏神様となって子孫を見守り悩み苦しみを加護するという日本の固有信仰を初めて体系的に解き明かした柳田『神観念』総決算の書。現代かな使い、新漢字、専門語・難解語にふりがなと脚注、別注、索引を付けた新編集。」お盆の時期は過ぎましたが、是非一読を。/この石文社さんからは石やお墓の情報を扱う石材業界の専門誌『月刊石材』というとてもユニークな雑誌を発行しています。最新号の巻頭特集は「お墓参りも『ゆとり』の時代へ」。/こうした、業界の人以外絶対読まないであろうという雑誌を当センターでは多く扱っているので、少しご紹介したいと思います。『海運』(月刊・日本海運集会所・1260円)は総合物流情報誌をうたう海運業界の専門誌。『寺門興隆』(月刊・興山社・1155円)は寺院関係者の実務誌。地域環境ネットから出ている全国各地のあらゆる河川情報を集めたクリッピングマガジン『RIVER LIFE』が今年休刊となってしまったのは残念でした。

## 郵便販売のご注文方法

- ◎お名前、お届け先(郵便番号、住所)、連絡先お電話番号、ご注文品の書誌名、冊数の必要事項を明記のうえ、下記までFAXでご連絡ください。
- ◎送料、冊子小包・メール便共実費でお送りさせていただきます。基本的にメール便は、一冊210円でお送り致します。(メール便の到着は、発送してから3～4日かかります。)お急ぎの方、その他ご要望がございます場合はお気軽に下記までお問い合わせ下さいませ。
- ◎なお書籍お買上総計(税抜き価格)が5,000円以上の場合は、送料をサービスさせていただきます。
- ★地方・小出版流通センター  
FAX：03-3235-6182

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。



# 三省堂書店

BOOKS SANSEIDO

**神保町本店 4階**  
**地方出版・小出版物フロア**

営業時間 10:00 AM～8:00 PM  
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1  
TEL. 03-3233-3312(代)  
URL. <http://www.books-sanseido.co.jp>

営業の  
ごあんない

本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。

